

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	論理国語	単位数	3 単位	学年・学科・コース	3 年普通科普通コース（文系）
使用教科書	三省堂「精選論理国語」			副教材等	語彙力をつける入試漢字・新現代文単語

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことができる。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	スポーツとナショナリズム 「である」と「する」こと	・スポーツとナショナリズムの関係を考察する。 ・「市民社会」における権利と義務について考える。	○			・論証したり、学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている ・文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている ・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。	授業態度 定期考査 小テスト 課題
6	情報ネットワーク社会	・情報ネットワーク社会の課題を明らかにする。	○			・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解をしている。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を捉えている。 ・進んで文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深め、様々な資料を調べて発表したり話し合ったりしようとしている。	
7 8	「私」消え、止まらぬ連鎖	・高度消費社会における「欲望」について考える。	○			・論証したり、学習した基礎語句を文章の中で使用したりすることを通して語彙を豊かにしている。 ・実社会の事柄について、様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 ・進んで論証したり、学習の見通しをもって、様々な観点から情報を収取したりして、自分の考えを論述しようとしている。	

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	コンクリートの時代	コンクリート建築から「近代」という時代の特徴を考える。	○			・文章の種類に基づく効果的な段落の構成や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	授業態度 定期考査 小テスト 課題
				○		・情報の信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして主張をしている。	
					○	・構成や展開の仕方について理解を深め、自分の考えをまとめて批評し合おうとしている。	
10 ～ 2	マーク演習	・さまざまな文章に触れる中で、総合的な国語力を身につける。	○			・語句の意味や文章の論理展開を理解し、それをもとに文章を読み取り、問いに対する答えを考えることができる。	
				○		・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	
					○	・内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、学習した語句や表現を用いて情報や考えをまとめたり、伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	古典探究	単位数	3	学年・学科・コース	3年普通科普通コース（文系）
使用教科書	高等学校 精選古典探究（第一学習社）			副教材等	古典文法書・古文単語帳・漢文必携

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	古歌物語 『伊勢物語』「渚の院」	・歌物語の内容を的確に読み取る。	○			・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	定期考査 小テスト 課題 授業態度
				○		・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
					○	・登場人物の言動や話の概要とその意味について考察しようとしている。	
	漢歴史 『史記』「荊軻」	・『史記』を読み、荊軻の生き方を通して人間の在り方について関心を深める。	○			・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。	
				○		・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
					○	・積極的に文章の面白さを味わい、自分に引き付けて人間の在り方について考察しようとしている。	
6	古評論 『俊頼髄脳』	・和歌がどのように享受されてきたかを調べ、本教材の位置づけについて考察する。	○			・古典を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めている。	
				○		・作品の成立した背景やほかの作品などとの関係を踏まえながら古典を読み、作品の価値について考察している。	
					○	・積極的に背景を踏まえながら評論の論旨を的確に捉え、今までの学習を生かして、自分の考えを深めようとしている。	

7 8	漢諸子百家 「孟子」「老子」	・各テーマに対する諸子百家の 思想の違いを知り、ものの見 方、考え方を豊かにする。	○			・先人のものの見方、感じ方、考え方に親し み、自分のものの見方、感じ方、考え方を 豊かにする読書の意義と効用について理 解を深めている。	定期考査 小テスト 課題 授業態度
				○		・書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を 解釈するとともに、文章の構成や展開、表 現の特色について評価している。	
					○	・文章の内容からそれぞれの考え方を積極的 に読み取り、その違いについて理解すると ともに、各テーマに対して自分自身の考え をまとめようとしている。	
9 10	古歴史物語 『大鏡』『菅原道真の左遷』	・歴史物語を背景に注意しなが ら読み、作品についての理解 を深める。	○			・文の成分の順序や照応、文章の構成や展開 の仕方について理解を深めている。	
				○		・作品に表れているものの見方、感じ方、考 え方を踏まえ、人間、社会、自然などに對 する自分の考えを広げたり深めたりして いる。	
					○	・積極的に歴史物語の人物関係や時代背景に ついて調べ、登場人物の心情や人物像につ いての理解を深めようとしている。	
11 ～ 12	マーク演習	・さまざまな文章に触れる中 で、総合的な古典の力を身に つける。	○			・単語や文章の展開を理解しながら、問題文 を読み解くことができる。	
				○		・作品に表れているものの見方、感じ方、考 え方を踏まえ、古典世界に対する自分の考 えを広げたり深めたりしている。	
					○	・積極的に歴史物語の人物関係や時代背景に ついて調べ、登場人物の心情や人物像につ いての理解を深めようとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	地理探究	単位数	4単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)		副教材等	2024 新地理要点ノート(啓隆社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	地理探究の目標について、学習指導要領では次のように規定しています。社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に、世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする学習過程を前提に、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題などを理解している。	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて構想できる力を身に付けている。	日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることから、グローバル化が進み、国際理解の必要性が増している現代における重要な資質・能力を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準,評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	1 節 人口 1 世界の人口 2 人口の移動 2 節 人口問題 1 世界の人口問題 2 日本の人口問題 3 節 村落と都市 1 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の成立と形態・機能 4 都市圏拡大と都市の構造	人口, 居住・都市問題の現状や要因, 解決に向けた取り組みを理解する。 主題を設定し, 関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し, 表現する。 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする。	○			世界各国の人口規模・分布や, 先進国と発展途上国の出生率の高低や高齢化の進行の違いについて理解している。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		村落や都市の立地や発達, 形態, 変容の傾向や規則性について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	
					○	村落と都市について, 課題を主体的に追究しようとしている。	
			○			世界の都市が持続的に発展していくための課題, 日本の都市の課題と解決するための取り組みについて理解している。	
5	4 節 都市・居住問題 1 発展途上国の都市・居住問題 2 先進国の都市・居住問題 3 日本の都市・居住問題 1 節 衣食住 1 世界の衣服と食生活 2 住居と衣食住の画一化	①生活文化, 民族・宗教などの空間的な規則性, 傾向性, 民族, 領土問題の要因, 解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ②主題を設定し, 多面的・多角的に考察し, 表現する。 ③よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする。	○			都市が持続的に発展するための課題, 日本の都市の課題と解決の取り組みについて, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		都市・居住問題について, よりよい社会の実現を視野にそぞみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
			○			生活文化, 民族・宗教などに関わる空間的な規則性, 傾向性や民族, 領土問題の要因, 解決の取り組みについて理解している。	
				○		場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して, 主題を設定し, 地球的課題の要因や動向を多面的・多角的に考察し, 表現している。	
6	2 節 民族・宗教と民族問題 1 世界の民族・言語 2 世界の宗教 3 さまざまな民族問題 4 多文化の共生 3 節 国家の領域と領土問題 1 現代世界と国家 2 領土問題 3 日本の領域と領土	①生活文化, 民族・宗教や民族, 領土問題や要因, 解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ②主題を設定し, 多面的・多角的に考察する。 ③よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究する。	○			生活文化, 民族・宗教について, よりよい社会の実現を視野にそぞみられる課題を主体的に追究しようとしている。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		中国について, 民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	
				○		中国について, さまざまな事象を項目ごとに整理して, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	
					○	韓国について, よりよい社会の実現を視野にそぞみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
7	1 節 中国 1 政治体制と多様な民族 2 食生活と農業・水産業 3 工業化と海外進出 4 経済発展に伴う課題 2 節 韓国 1 歴史と生活文化 2 産業の発展と生活の変化	中国の急速な経済発展に伴う地球的課題について考察する。 韓国の自然環境や歴史と生活文化, 産業の事象を項目ごとに整理して考察する。	○			中国について, 民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		中国について, さまざまな事象を項目ごとに整理して, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	
					○	韓国について, よりよい社会の実現を視野にそぞみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
			○			生活文化, 民族・宗教などに関わる空間的な規則性, 傾向性や民族, 領土問題の要因, 解決の取り組みについて理解している。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8・9	3節 ASEAN 諸国 1 歴史と文化・民族 2 農業とその変化 3 工業とその発展 4 ASEAN の変化と課題 4節 インド 1 産業の発展 2 人口と農村の変化 3 社会の変化と経済格差 5節 西アジアと中央アジア 1 イスラームの生活文化 2 歴史と乾燥地域の農業 3 豊富な資源を生かして進められる開発	ASEAN 諸国の文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察する。 インドの産業の発展や農村・社会の変化, 国内の経済格差をはじめとする課題を, 経済成長に関連づけて考察する。 西アジアと中央アジアの二つの地域を比較し、考察する。	○			古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいる ASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	
				○		西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	西アジアと中央アジアについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
10	6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ 1 多様な文化 2 他地域との結びつき 3 一次産品依存と課題 7節 EU 諸国 1 EU の成立と結びつき 2 多様な農業と政策 3 移り変わる EU の工業 4 EU 拡大の影響と課題	北アフリカとサハラ以南アフリカの二つの地域を比較するとともに一次産品への依存がもたらす地球的課題を考察する。 EU を中心とした政治・経済の統合と民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察する。	○			まとまりをもっている一方で、大きく異なる点もある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。	
				○		EU を中心とした政治・経済の統合と民族や産業などの事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	EU 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
11	8節 ロシア 1 ロシアの成立と体制変化 2 体制変化が産業への影響 9節 アメリカ合衆国 1 アメリカ合衆国の発展 2 世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国 3 進展する科学技術と産業 4 多民族社会と移民増加	ロシアの国家体制の変化に着目して工業や農業の特徴をとらえ、資源・エネルギーをめぐる地球的課題を考察する。アメリカの地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理しつつ、多民族社会や移民に関する地球的課題を考察する。	○			新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて理解している。	授業態度 学習プリント 課題
				○		アメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	アメリカ合衆国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
12	10節 ラテンアメリカ 1 ヨーロッパの影響 2 大土地所有制と農業 3 工業化の進展と経済発展 11節 オーストラリアとニュージーランド 1 移民の歴史と多文化社会 2 自然を生かした産業 3 アジア太平洋圏との関係	ヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景と文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて考察する。 オーストラリアとニュージーランドの二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を考察する。	○			ラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて理解している。	
				○		オーストラリアとニュージーランドの二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	オーストラリアとニュージーランドについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
1	1節 将来の国土の在り方 1 日本の強みと地理的な課題 2節 持続可能な日本の国土像の探究 1 課題の把握 2 課題の追究 3 課題の解決	日本の強みをより生かせる将来について考え、持続可能な社会を構築していく取り組みを考察する。日本が抱える地理的な諸課題を解決し、持続可能な社会の実現に向けた方策を考察する。	○			日本の将来について考え、持続可能な社会を構築していくには、どのようなことに取り組めばよいかについて理解している。	授業態度 学習プリント 課題
				○		日本が持続可能な社会を構築していくには、どのようなことに取り組めばよいかについて、多面的・多角的に探究し、表現している。	
					○	将来の国土の在り方について、課題を主体的に探究しようとしている。	

令和7年度 年間學習指導計畫案

科目	日本史探究	単位数	4単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	日本史探究(東京書籍)			副教材等	新詳日本史(浜島書店)

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切・効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察・構想・説明したりする力やそれらを基に議論したりする力を養う。 ・よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、文化の特色などを多面的・多角的に考察し、それらを基に議論している。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第3編第3章2節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」	・幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解している。	
				○		・近世の国家・社会の変容について、歴史の画期など根拠を示して表現できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
5	第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近代社会の幕開け 第2章 歴史資料と近現代の展望	・幕末から近代初頭の時期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	○			・対外関係の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などをもとに、近世から近代への時代の転換を理解している。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現できる。	
					○	・近現代の地域・日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追求しようとしている。	
6	第3章 近現代社会の展開 1節「近現代の制度の導入と新しい国際関係」	・近代から現代にいたる国家・社会の展開について、根拠を示して表現する学習を通じて、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解している。	
				○		・近代の政治の展開について多面的・多角的に考察できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
7 8	2節「国民国家と資本主義の成立」	・立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解している。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・近代の政治の展開と国際的地位の確立について、根拠を示して表現できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
9	3節「両大戦間期の日本」	・近代から現代にいたる国家・社会の展開について多面的・多角的に考察し、大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解している。	
				○		・歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できる。	
					○	・内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10	4節「第二次世界大戦と日本」 5節「占領と改革」	・第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解している。	授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、多面的・多角的に考察できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
11	6節「国際社会への復帰と高度経済成長」 7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」	・近代から現代にいたる国家・社会の展開について、我が国の再出発後の政治・経済や対外関係を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・我が国の再出発後の政治・経済や対外関係を理解している。	
				○		・戦後政治の展開、日本経済の発展について、歴史の画期などを根拠をしめして表現できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
12	8節「新しい国際秩序との本の課題」	・近代から現代にいたる国家・社会の展開について、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解している。	
				○		・国民の生活や地域社会の変化などに着目して、歴史の画期などを根拠を示して表現できる。	
					○	・内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	
1	第4章 現代の日本の課題の探究	・これまでの学習をふまえ、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。	○			・先史・古代、中世、近世、近現代の学習をふまえて、現代の日本の課題を理解している。	授業態度 ノート・プリント
				○		・現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察・構想して表現できる。	
					○	・自身との関わりをふまえて、持続可能な社会の実現を視野に、主体的に探求しようとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	世界史探究	単位数	4単位	学年・学科・コース	3学年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	世界史探究(東京書籍)			副教材等	グローバルワイド最新世界史図表(第一学習社)

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象を、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。 ・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめられる。	世界の歴史事象の意味や意義、特色などを時期や年代、相互の関連や現代とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察し、それらを説明、また、議論できる。	世界の歴史の諸事象について、主体的に探究しようとする態度を持つとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重する姿勢などを持っている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	16世紀から17世紀にかけてヨーロッパにあらわれた新しい国家には、どのような特徴があったのか、また、その形成にはどのような要因が働いていたのかなどについて理解する。	○			主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパ社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	「主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	
5	第14章 国民国家と近代社会の形成	18世紀半ばから19世紀半ばにかけて、欧米で産業革命や、国民が政治の主体となる国家を建設しようとする動きが広がったのはなぜか、また、このような変革は、現代までどのような影響を与えているのかについて理解する。	○			国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。	
				○		産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	「国民国家と近代社会の形成」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	
6	第15章 世界市場の形成とアジア諸国の変容	産業革命で先行したイギリスが19世紀半ばに自由貿易体制を推進したのに対し、後発のヨーロッパ諸国はどのように対応したのか、また、ヨーロッパ発の工業化の波はアジア諸国に何をもたらしたのかについて理解する。	○			世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	「世界市場の形成とアジア諸国の変容」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	
7	第16章 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行	アジア諸国が自国の危機をどのように認識し、欧米列強と対峙しながらいかに改革をすすめたのか、また、欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。	○			世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。	
				○		世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	「アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8	第 17 章 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容	第一次世界大戦は、なぜ「世界大戦」とよばれ、それまでの戦争とどのような点において異なるのか、そして、それぞれの地域において戦争の経験はどのような意味をもったのかなどについて理解する。	○			第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	「第一次世界大戦の展開と諸地域の変容」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
9	第 18 章 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦	世界恐慌は、経済や政治をどのように変化させたのか、また、そのなかで台頭したファシズム国家によってひきおこされた第二次世界大戦の推移は、戦後の国際秩序の再編にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○			国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。	
				○		世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	「国際協調体制の動揺と第二次世界大戦」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
10	第 19 章 第二次世界大戦と戦後の東アジア	第二次世界大戦中のアジアの戦後構想と実際のアジアの戦後は、どのような点が連続し、あるいは異なっていたのかについて理解する。	○			第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。	
				○		第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	「第二次世界大戦と戦後の東アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
11	第 20 章 冷戦の世界化と国際制度	冷戦のもとで、世界の平和はどのように模索されたのか、また、冷戦は世界に広がるなかで、それぞれの地域でどのような意味をもったのかについて理解する。	○			紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。	授業態度 課題 プリント
				○		国際連盟と国際連合との共通点と相違点、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	「冷戦の世界化と国際制度」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
12	第 21 章 冷戦の変容・終結と経済のグローバル化	冷戦の変容にともない、アメリカ合衆国の経済覇権はどのように動揺したのか、また、その後が生じた経済のグローバル化は何を契機におこり、世界経済をどのようにかえていったのかについて理解する。	○			紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。	
				○		紛争と経済や社会の変化との関連性、諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴、経済格差と政治や社会の変化との関連性、科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	「冷戦の変容・終結と経済のグローバル化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
1	第 22 章 21 世紀の地球的課題と人類社会	21 世紀に入り、地球上ではどのような問題が生じ、人類社会はどのような課題に直面し、それを克服しようとしているのかについて、これまでの歴史をふまえ、その課題に取り組む当事者として考える。	○			紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。	授業態度 課題 プリント
				○		紛争と経済や社会の変化との関連性、経済格差と政治や社会の変化との関連性、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	「21 世紀の地球的課題と人類社会」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	政治・経済	単位数	3単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	詳述 政治・経済(実教出版)			副教材等	最新図説 政経(浜島書店)

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	公共で学んだ知識や技能をさらに深め、よりよい社会の実現のために、事実を基に多面的・多角的に考察し、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら議論を重ねたりして、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を深めることを目指す。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会に見られる複雑な課題を把握し説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して合意形成や社会参画に向かう力を、身につけている。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うと共に、国民主権を担う公民として、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深めることができている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第1部 現代日本における政治・経済の諸課題 第1編 現代日本の政治 第1章 民主政治の基本原則	政治とは何か、民主政治の基本原則とは何か、などの基本事項を理解し、これから政治に関わっていく主体的な態度を育成する。	○			政治と法の意義と機能、議会制民主主義などについて、実社会の諸事象を通して理解を深めている。 望ましい政治の在り方や主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察し、表現している。 民主政治の基本原則における学習上の課題を、意欲的に解決しようとしている。	定期考查 授業態度 課題 ノート 学習プリント
5	第2章 日本国憲法の基本的性格	基本的人権の保障と法の支配などについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めると共に、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。	○			基本的人権や、権利と義務の関係などについて、実社会の諸事象を通して理解を深めている。 民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。 日本国憲法の基本的性格における学習上の課題を、意欲的に解決しようとしている。	
6 7	第3章 日本の政治機構	権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治などについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めると共に、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。	○			基本的人権の保障と法の支配、議会制民主主義、地方自治などについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 望ましい政治の在り方や主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察し、表現している。 日本の政治機構における学習上の課題を、意欲的に解決しようとしている。	
8 9	第4章 現代日本の政治	現代日本の政治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めると共に、関連する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。	○			権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治などについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察し、構想し、表現している。 現代日本の政治における学習上の課題を、意欲的に解決しようとしている。	
9	第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容	経済活動について、現実社会の諸事象を通して理解を深めると共に、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。	○			経済活動について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 経済活動について多面的・多角的に考察し、表現している。 経済社会の変容とその課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10 11	第2章 現代経済のしくみ	市場経済や経済成長などについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めると共に、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。	○			市場経済や経済成長、金融の働きと仕組みなどについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。	授業態度 課題 ノート 学習プリント
				○		市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方などについて多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	
					○	現代経済のしくみにおける学習上の課題を、意欲的に解決しようとしている。	
12	第3章 現代経済と福祉の向上	経済活動と市場、租税の意義、金融の働きと仕組みなどについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めると共に、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。	○			経済活動と市場、租税の意義、金融の働きと仕組みなどについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。	
				○		経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	現代経済と福祉の向上における学習上の課題を、意欲的に解決しようとしている。	
1	第2部 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治 第2章 現代の国際経済	国際法の意義、国際貢献、国民経済と国際収支などについて現実社会の諸事象を通して理解を深めると共に、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。	○			国際法の意義、国際貢献、国民経済と国際収支などについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。	授業態度 課題 ノート 学習プリント
				○		国際法の果たす役割や国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	現代の国際政治や国際政治における学習上の課題を、意欲的に解決しようとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学Ⅱ	単位数	2単位 (1～3学期)	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	高等学校 数学Ⅱ(数研出版)		副教材等		チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B (数研出版)

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	総合演習 第1章 式と証明	多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	○			分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式の形にして表現することができる。	授業態度 課題 定期考査
				○		多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。	
					○	2種類の文字を含む多項式の割り算に興味を示し、具体的な問題に取り組もうとする。	
5 6	総合演習 第2章 複素数と方程式	方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。	○			解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。	
				○		異なる2つの実数 α, β が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。	
					○	2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。	
7 8	総合演習 第3章 図形と方程式	座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○			与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。	
				○		点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。	
					○	図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。	
9 10	総合演習 第4章 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	○			三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。	
				○		三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。また、その解き方を理解している。	
					○	三角関数を含む方程式・不等式を解くことに取り組む意欲がある。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
11 12	総合演習 第5節 指数・対数関数	指数関数について理解し,それらを事象の考察に活用できるようにする。 対数関数について理解し,それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			指数と対数とを相互に書き換えることができる。	授業態度 課題
				○		指数法則から,対数の性質を考察することができる。	
					○	やや複雑な対数方程式,対数不等式に積極的に取り組もうとする。	
1 2	総合演習 第6節 微分法と積分法	導関数の理解を深めるとともに,導関数の有用性を認識できるようにする。積分の考えについて理解し,それらの有用性を認識するとともに,事象の考察に活用できるようにする。	○			導関数の性質を利用して,種々の導関数の計算ができる。	
				○		微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。	
					○	直線や曲線で囲まれた部分の面積を,定積分を用いて求めようとする。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学 B	単位数	2単位 (1～3学期)	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	高等学校 数学B(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学B (数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	数列, 統計的な推測について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6	総合演習 第1章 数列	数列やその一般項の表し方について理解する。また, 基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し, それらの和を求められるようにする。また, これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を培う。	○			等差数列の公差, 一般項, 等比数列の公比, 一般項などを理解している。	授業態度 課題 定期考査
				○		複雑な漸化式を, おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。	
					○	おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について, 考察しようとする。	
7 8 9 10	総合演習 第2章 統計的な推測	確率変数と確率分布について理解し, 期待値や分散, 標準偏差などを求めることを通じて, 分布の特徴を把握できるようにする。また, 連続型確率変数についても理解し, 正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	○			確率変数の期待値 $E(X)$ や分散 $V(X)$ などの計算式を理解して活用することができる。	
				○		確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。	
					○	2つの確率変数の和や積の期待値, 分散に関する種々の公式を, 確率変数が独立であるかどうか注意到意しながら導こうとする。	
11 12 1 2	総合演習 数学B	既習の知識を利用し, 問題を解くことができるようにする。	○			公式を用いて, 解答を導くことができる。	授業態度 課題
				○		問題の意味を捉え, 的確な方法で解答することができる。	
					○	様々な問題を興味・関心をもち, 考察しようとする。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学 C	単位数	1単位 (1～3学期)	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	高等学校 数学 C(数研出版)			副教材等	チャート式 解法と演習 数学 C(数研出版)

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6 7	総合演習 第1章 平面上のベクトル	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。	○			具体的なベクトルを2つのベクトルで表すことができる。	授業態度 課題 定期考査
				○		点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。	
					○	様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。	
			○			平面上のベクトルについての種々の定義や性質などは、空間においても同様に成り立つことを理解している	
8 9 10	総合演習 第2章 空間のベクトル	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。		○		空間ベクトルの成分を座標空間と関連付けて考察できる。	
					○	様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。	
			○			公式を用いて、解答を導くことができる。	
11 12 1 2	総合演習 数学C	既習の知識を利用し、問題を解くことができるようにする。		○		問題の意味を捉え、的確な方法で解答することができる。	授業態度 課題
					○	様々な問題を興味・関心をもち、考察しようとする。	
			○				

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	化学基礎	単位数	2単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	啓林館 i 版 化学基礎		副教材等	新課程 Visual Select 化学基礎ノート 新課程版 2025 標準セミナー化学基礎	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解させるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解し、観察・実験などの基本的な技能を身に付けている。	科学的な事物・現象を観察・実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第2章 中和反応の量的関係 39. 中和滴定 40. 滴定曲線	・酸や塩基に関する実験などを通して、中和反応に関与する物質の量的関係について理解する。 ・酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 ・この科目で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する。	○			・中和滴定の実験を通して、実験結果をまとめ、分析・考察しようとしている。	定期考査 小テスト 提出物 授業ノート 授業態度
5	第3章 酸化還元反応 41. 酸化と還元の定義 42. 酸化数 43. 酸化剤と還元剤 44. 酸化還元反応の反応式 45. 酸化還元反応の量的関係 46. イオン化傾向 47. 金属の酸化還元反応		○			・酸化還元反応の定義を酸素や水素、電子の授受へと広げ、酸化数の増減により説明できることを理解しようとしている。 ・酸化還元反応と物質量の量的関係について理解しようとする。	
			○			・金属によって陽イオンになりやすさが異なることを、金属のイオン化傾向と関連付けて理解しようとしている。	
6	48. 酸化・還元の利用 —電池— 49. 電池の仕組み 50. 酸化還元反応の利用 —金属の精錬—			○		・酸化還元反応や金属のイオン化傾向と関連付けて、ダニエル電池の基本的な仕組みについて説明することができる。	
					○	・金属の精錬を通して、日常生活や社会を支えている科学技術との結びつきについて主体的に探究しようとする。	
7 10	化学基礎演習	・既習事項の演習に取り組み、知識の定着を行う。	○			・化学基礎の内容について化学的根拠をもって論理的に考えることができる。	定期考査 授業態度 提出物
					○	・主体的に演習に取り組むことができる。	
11 以降	共通テスト対策演習 二次試験対策	・入試問題等の演習に取り組むことで、これまでの既習事項との関連を見出す。		○		・既習事項を結び付け、化学的根拠をもって論理的に考えることができる。	授業態度 提出物
					○	・主体的に演習に取り組むことができる。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	生物基礎	単位数	2単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	高等学校生物基礎(数研出版)			副教材等	進研 WINSTEP 生物基礎(ラーズ)

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成	・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 ・代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動には ATP が関わっていることを理解する。	○			・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解している。	定期考査 授業態度 小テスト 課題
				○		・生物にみられる特徴について説明できる。	
					○	・代謝におけるATPの役割について、資料からわかることを積極的に説明しようとしている。	
5	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の複製とタンパク質 3. 遺伝情報の発現	・遺伝子とDNAと染色体の関係について理解する。 ・細胞の分裂の各過程で起こる現象を理解する。 ・DNAの3つの塩基の並び(コドン)が1つのアミノ酸に対応していることを理解する。	○			・遺伝子とDNAと染色体の関係について理解している。	
				○		・塩基の相補性に着目して、DNAの複製のしくみを説明できる。	
					○	・遺伝暗号表をもとに、例示されたmRNAが指定するアミノ酸配列を正確に読み取ろうとしている。	
6	第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ	・恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 ・自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。	○			・体液の種類と関係、血球の種類について理解している。	定期考査 授業態度 小テスト 課題
				○		・体内環境の調節における、内分泌系と自律神経系の働きの違いを説明できる。	
					○	・積極的に体内における情報伝達のしくみを理解し、説明しようとしている。	
7	3. 免疫のはたらき	・免疫を担う細胞や器官の種類と働きを概要を理解する。 ・獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。 ・免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。	○			・免疫には、さまざまな免疫細胞が関与することを理解している。	定期考査 授業態度 小テスト 課題
				○		・自然免疫と獲得免疫のつながりを説明できる。	
					○	・免疫に関する疾患について積極的に説明しようとしている。	
月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法

			a	b	c		
8	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム	・植生が異なると光や土壌環境も異なり、植生と環境は密接な関係にあることに気づく。 ・バイオームの概念を理解し、陸上にはその地域に生育する植物を基盤としたさまざまなバイオームが成立することを理解する。	○			・植生、相観、優占種について理解している。	定期考査 授業態度 小テスト 課題
				○		・世界でみられる草原や荒原が森林へ遷移することなく長期間維持されている要因として、その地域の年降水量や年平均気温などが関係していることを、読み取ることができる。	
					○	・バイオームの分布を決める要因を資料から積極的に読み取ろうとしている。	
9	3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	・生態系の構成について理解する。 ・生物は、食物連鎖（食物網）によってつながっていることを理解する。 ・人間は、生態系からさまざまな恩恵を受けており、それを受け続けるためには生態系を保全する必要があることを理解する。	○			・生態系において、生物が食物網によってつながっていることを理解している。	
				○		・各生態系で、異なる種の多様性がみられる理由を説明できる。	
					○	・生態系のバランスと保全に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	
10 11 12 1	共通テスト対策演習	・既習の学習内容と関連付けて共通テストの対策を行い、理解を深める。	○			・演習を通して、生物の既習事項を確認し、理解している。	授業態度 小テスト 課題
				○		・演習を通して、生物の既習事項について説明することができる。	
					○	・演習を通して、生物の既習事項について自らの考えを調整しながら理解しようとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	体育	単位数	2単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	なし			副教材等	Active Sports (大修館)

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	体づくり運動	・心と体の関係に気づき、仲間と交流する。	○			・自己のねらいに応じて効果的な成果を得るための適切な運動の行い方を理解できる。	授業態度 学習カード
				○		・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	
					○	・体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。	
	体育理論	・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	○			・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できる。	
				○		・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方を見出し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えること。	
					○	・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。	
5 6 7 8	器械体操 陸上競技(競走・跳躍・投擲) ダンスから選択	・(器械体操)技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動の観察、体力の高め方を理解する。 ・(陸上競技)記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につける。 ・(ダンス)感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多	○			・(器械体操)回転系の接転技群、ほん転技群の基本的な技、巧技系の平均立ち技群の基本的な動きを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。 ・(陸上競技)技術と関連させた運動や練習を繰り返したり継続して行ったりすることで結果として体力を高めることができることを理解できる。 ・(ダンス)イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表を理解できる。	
					○		・(器械体操)自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。

		様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊り方を身につけて交流や発表する。				・(陸上競技) 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。 (ダンス) 作品の創作や発表会に向けた仲間と話し合う場で合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えることができる。	
					○	・(器械体操・陸上競技・ダンス) 自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にできる。	
9	体育理論	・スポーツから得られる恵恩とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	○			・ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について理解できる。	授業態度 学習カード
				○		・自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見し他者に伝えることができる。	
					○	・ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について主体的に取り組むことができる。	
9 10	球技・武道から選択 球技(ゴール型・ネット型 ベースボール型) 武道(剣道・柔道)	・(球技) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・(武道) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。	○			・(球技) 型や種類によって必要な体力要素がありその型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。 ・(武道) 伝統的な考え方とは対戦相手は「道」を追及する大切な仲間であることを理解できる。	授業態度 学習カード
					○	・(球技) チームでの学習で状況に応じてチームや自己の役割を他者に伝えることができる。 ・(武道) 練習や試合の場面で自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができる。	
					○	・(球技) 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にすることができる。 ・(武道) 相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするすることができる。	
10	体づくり運動	・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画たて、取り組む。	○			・体力の構成要素は健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関連していることを理解することができる。	授業態度 学習カード
					○	・学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に応用することができる。	
					○	・一人一人の違いを大切に、健康・安全を確保することができる。	
11 12 1 2	球技・武道から選択 球技(ゴール型・ネット型 ベースボール型) 武道(剣道・柔道)	・(球技) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・(武道) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。	○			・(球技) 型や種類によって必要な体力要素がありその型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。 ・(武道) 伝統的な考え方とは対戦相手は「道」を追及する大切な仲間であることを理解できる。	授業態度 学習カード
					○	・(球技) チームでの学習で状況に応じてチームや自己の役割を他者に伝えることができる。 ・(武道) 練習や試合の場面で自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができる。	
					○	・(球技) 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にすることができる。 ・(武道) 相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするすることができる。	

令和 7 年度 年間学習指導計画案

科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース
使用教科書	BLUE MARBLE English Communication Ⅲ (数研出版)			副教材等	ユメタンⅠ(アルク) 総合英語 FACTBOOK(桐原書店)

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする発展的な能力を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
英語の特徴やきまりに関する事項を理解するとともに、これらの知識をコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、適切に活用できる技能を身につけようとしている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や、話し手や書き手の考えや気持ちなどを的確に理解し、これらを論理性に注意して伝えようとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 ・ 5	■Lesson 2 Protecting Our Brains from Smartphones	・本文を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生することができる。 (以下同) ・スマートフォンの過度な使用による弊害とその対策について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○			新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それをもとに、文章を読み取ることができる。	定期考査 発問評価 提出物 小テスト
				○		本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
6	■Lesson 3 Wrapping: Reinventing a Cultural Tradition	・[Lesson 2～共通] ・日本の「包む」文化とごみ問題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○			新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それをもとに、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7 ・ 8	■Lesson 4 Paving the Way to a More Inclusive Society	・[Lesson 2～共通] ・点字ブロックの誕生と今後の可能性について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○			新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それをもとに、文章を読み取ることができる。	定期考査 発問評価 提出物 小テスト
				○		本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
9	■Lesson 7 Perceptions of Time in Different Cultures	・[Lesson 2～共通] ・文化によって異なる時間感覚について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○			新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それをもとに、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
10 ～ 2	総合問題演習	・より難易度が高く、語数が多い文章を読んだり聞いたりして、概要や要点を把握することができる。 ・既習の文法事項や語句、表現を用いて、より難易度が高い英作文問題や文法問題に取り組むことができる。	○			新出語や重要表現、文の構造、文章の論理展開を理解し、それをもとに文章を読み取り、問いに対する答えを考えることができる。	
				○		長文問題、文法問題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、学習した語句や表現を用いて情報や考えをまとめたり、伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	論理・表現Ⅲ	単位数	文系3単位 理系2単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース
使用教科書	English Logic and Expression III		副教材等	Next Stage / Steady Steps to Writing	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	各単元の応用的な文法項目を正しく用いて表現することができ、時事問題や現代社会が抱える問題などの題材について自分のことを伝え、相手の言うことを理解しようとする意欲的なコミュニケーションを取る姿勢を身につける。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
応用的な文法事項の意味や働きについて理解し、書く・話す／伝え合う技能を身につけている。	各単元の題材について、筋道を立てて適切な英語で詳しく伝え合うことが出来る。	各単元の題材について、筋道を立てて適切な英語で伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	Lesson 1 A City Worth Visiting	受動態を適切に使う。 動詞の形を意識する。	○			動詞の活用について理解している。 動詞の活用を適切に用いて伝え合う技能を身につけている。	発問評価 定期考査 提出物 小テスト
	Lesson 2 Our Hometowns			○		町の紹介や生まれ育った町について筋道を立てて詳しく伝え合うことが出来る。	
					○	町の紹介や生まれ育った町について筋道を立てて伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。	
5	Lesson 3 What Makes a City Attractive?	話し手がどう思っているかを助動詞で表す。 何と何を比べているのか意識する。	○			助動詞と比較について理解している。 助動詞と比較を適切に用いて伝え合う技能を身につけている。	
	Lesson 4 How Do You Spend Your Time?			○		魅力ある街づくりの提案や時間の過ごし方について筋道を立てて詳しく伝え合うことが出来る。	
					○	魅力ある街づくりの提案や時間の過ごし方について筋道を立てて伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。	
6	Lesson 5 Trying Something New	比較級の前で差の程度を示す。 副詞や形容詞で程度を表す	○			差や程度を表す英語表現について理解している。 差や程度を表す英語表現を用いて伝え合う技能を身につけている。	
	Lesson 6 The Art of Translation			○		スポーツや翻訳が伝えるものについて筋道を立てて詳しく伝え合うことが出来る。	
					○	スポーツや翻訳が伝えるものについて筋道を立てて伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7	Lesson 7 Combatting Climate Change Lesson 8 Pure Energy Sources	関係代名詞を使って名詞に説明を加える。 分詞で名詞に説明を加える。	○			関係代名詞・分詞について理解している。 関係代名詞・分詞を適切に用いて伝え合う技能を身につけている。	発問評価 定期考査 提出物 小テスト
				○		気候変動やこれからのエネルギー源について筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。	
					○	気候変動やこれからのエネルギー源について筋道を立てて伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。	
8	Lesson 9 Discussing the Environment Lesson 10 Globalization and Immigration	不定詞で名詞に説明を加える。 不定詞で「～すること」を表す。	○			不定詞について理解している。 不定詞を適切に用いて伝え合う技能を身につけている。	
				○		環境問題やグローバル化について筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。	
					○	環境問題やグローバル化について筋道を立てて伝え合おうとし、また自分の発話を振り返り、改善点を見出している。	
9	Lesson 11 What is Fair Trade? Lesson 12 Helping to Fight Poverty	動名詞で「～すること」を表す。 不定詞に副詞の働きをさせる。	○			動名詞と不定詞について理解している。 動名詞と不定詞を適切に用いて伝え合う技能を身につけている。	
				○		フェアトレードや貧困のない世界について筋道を立てて伝え合う技能を身につけている。	
					○	フェアトレードや貧困のない世界について筋道を立てて伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。	
10 ～ 2	総合問題演習	応用的な英文法の知識を基に高度な英文を理解し、自らの考えを適切な英語で表現する力を身につける。	○			文法事項を理解している。	
				○		文法事項を理解したうえで高度な英文を読解または文字で表現できる。	
					○	文法事項を理解したうえで筋道を立てた英語表現ができる。	